

UD
PROJECT

UD流!

文章術

Shigeaki Kodama

児玉茂昭

長岡技術科学大学
Nagaoka University of Technology

GIGAKU Press



はじめに この冊子について

筆者は、留学生の多い研究室に所属していて、ときどき留学生から日本語のことで相談を受けることがあります。一番多いのは、何が書いてあるのかわからないので教えてください、という相談です。

日本語で書かれた工学の教科書は、使われている言葉や言い回しに難しいところがあるので、日本語を勉強しながら工学を学ぶ留学生は、内容をうまく理解できないことがあります。

ならば、留学生にもわかりやすい教科書を作るために、教科書に使う日本語をもっとわかりやすくすればよいのではないかとわたしたちは考えました。その日本語は、日本語を始めたばかりの留学生にとってわかりやすいだけでなく、日本語を話すすべての人にとってわかりやすい、ユニバーサルなデザイン (UD) の日本語になるはずです。わたしたちは、それをプレーン・ジャパニーズ (Plain Japanese, PJ) と名付けました。そして、「UD による工学基礎教育の再構築」というプロジェクトの中で、この PJ を作り上げていきました。

その上で参考にしたものの一つが、プレーン・イングリッシュ (Plain English, PE) という誰にでもわかるようにデザインされた英語でした。PE は、アメリカやイギリスではもう 40 年近い歴史があり、広く使われていて、ガイドラインも出版されています。

日本でも、わかりやすい日本語を作る試みがあちこちで進んでいます。そうした試みや日本語で文章を書くときの手引き、それに PE のガイドラ

インを参考にしながら、PJ で書くためのガイドラインをまとめていきました。

そのようにしてできあがったのが、この『UD 流！文章術』です。

PJ で書かれたものは、まだ多くありません。この小冊子が、PJ で書くときの手助けになれば幸いです。

目次

はじめに この冊子について

第1章 最初の一文字を書く前に

- 1 読者は誰か？ 6
- 2 文章全体の構成を考えてから書き始める 7

第2章 わかりやすい文章を書くためのガイドライン

- 1 読み手がわかる言葉を使う 9
専門用語をどうするか／ひらがなで書く
- 2 不要な表現を避ける 12
二重否定を避ける／文末をあいまいにする表現を避ける／まわりくどい言い方は避ける／「のである」「のだ」を省く／本当に必要な表現かどうかを考える／必要のない繰り返しは避ける
- 3 できるだけ能動態を使う 15
- 4 名詞の連続を避け、動詞を用いる 16
名詞の連続を避ける／漢語サ変名詞の扱いについて
- 5 文章が複雑になる時には、表やリストを用いる 18
- 6 重要なポイントは、肯定文で書く 21
- 7 相互参照や注は最小限にする 22
- 8 句読点や約物は正しく使う 23
- 9 日本語の基本的な語順を守る 23
- 10 読点は規則に従って打つ 26
- 11 あいまいな文を減らす 29
主語と述語をきちんと対応させる／文は短く／

指示語は具体的な語に置き換える

第3章 実際に書き換えてみる

- 1 ガイドラインに沿った書き換え 32
- 2 チュウ太を使った書き換え 33
- 3 PJ システムを使った書き換え 36

付録 フローチャートの書き方 39

参考文献 42

あとがき 45

第 1 章 最初の一文字を書く前に

1 読者は誰か？

多くの文章作成のためのガイドラインが、「最初の一文字を書く前に、誰に対して、何を、どのように書くか考えること」をすすめています。今回、対象とするのは大学で専門科目を学ぶ留学生です。その留学生の日本語のレベルを、日本語能力試験（JLPT）の旧 2 級（2009 年までの JLPT は 4 段階で、その上から 2 番目です）程度とすると、次のような能力を持っています。

- ・ 漢字 1,000 字程度
- ・ 語彙 6,000 語程度
- ・ 学習時間 600 時間程度
- ・ 一般的なことがらについて会話ができ、読み書きができる

外国人向けの日本語のカリキュラムと、日本人向けの国語のカリキュラムは違います。旧 2 級程度の留学生は、だいたい中学 1、2 年生の日本語能力と見てよいでしょう。PL（ブレイン・ランゲージ）の先進国であるイギリスには「PE では、読み手が 13 歳程度の言語能力を持っていると想定して書類を作成すること」という基準があるそうです。だから中学 1、2 年生の日本語能力にあたる旧 2 級程度が PJ の基準として適当だと筆者は考えました。

ただし、次のことに注意してください。留学生は日本語については中学生程度でも、内容を理解する力は同年代の日本人学生と同じです。だから、

表現はわかりやすくする必要がありますが、内容は、同じレベルで大丈夫です。

文章を書くときに使った単語が、旧 2 級に含まれているかどうかをひとつひとつ自分で確かめるのは大変です。そこで役立つのが、「リーディングチュウ太」です。これは、東京国際大学の川村よし子先生が作成した支援システムで、文章を分析して、単語がどの級にあたるかを色分けして示してくれます。以下の URL からアクセスできます。

リーディングチュウ太

<http://language.tiu.ac.jp/>

第 3 章の 2 で、使い方を解説しています。慣れるとだんだん手放せない道具になるでしょう。

このほかに、OPE (“Oxford Plain English”) では、

- ・その文書から読み手は何が得られると期待しているか
- ・読み手はどんな状況でその文書を読むか

をあげています。このガイドラインの対象は、専門科目を学ぶ留学生なので、読み手の期待や状況は明らです。しかし、その他の場合についてはよく考える必要があります。

2 文章全体の構成を考えたから書き始める

文章全体の構成の作り方は二通りあります。大きな部分を先に作り、それから小さな部分を作っていく方法と、逆に小さな部分から始めて大きな部分にしていく方法です。OPE では、前者の方法を紹介しています。まず大きな紙を横向きにして章ごとの題を書き並べ、各章の

詳しい内容については、章ごとの題の下に並べていきます。下にその例を示してみました。

どちらの方法を使うにしても、文章の構造が読む人にわかりやすいことが大事です。アウトラインプロセッサなどの支援ツールを使うと、文章の順番を並べ替えたり、削ったり追加したりするのが簡単になります。

やさしい日本語で書くために

- 1 最初の一文字を書く前に
 - ・留学生のことについて
 - ・文章全体の構成の作り方
- 2 わかりやすい文章を書くために
 - ・ガイドラインを最初に
 - ・ガイドラインの解説
- 3 実際に書き換えてみる
 - ・チュウ太やガイドラインに沿った書き換え
 - ・ガイドラインを使った書き換え
 - ・フローチャートもここ？

第2章 わかりやすい文章を書くためのガイドライン

本章では、わかりやすい文章を書くための注意点を解説していきます。まず、注意点を箇条書きで示し、そのあとでより詳しく解説します。ガイドラインの項目は次の11点です。

◎ ガイドライン

- 1 読み手がわかる言葉を使う
- 2 必要のない言葉を使わない
- 3 できるだけ能動態を使う
- 4 名詞の連続を避け、動詞を使う
- 5 文章が複雑になる時には、表やリストを使う
- 6 重要なポイントは、肯定文で書く
- 7 相互参照や注は最小限にする
- 8 句読点や約物は正しく使う
- 9 日本語の基本的な語順を守る
- 10 読点は規則に従って打つ
- 11 あいまいな文を減らす

1 読み手がわかる言葉を使う 専門用語をどうするか

日本語能力試験の旧2級までで学ぶ単語は約6,000語です。しかし、その6,000語には、専門用語はほとんどありません。留学生は、自分の学ぶ分野の専門用語は日本語で覚えなければなりません。ですから、専門用語は、難しいと考えられるものでも、そのまま使ってください。

そのうえで、学生にわかりやすいように、ふりがなをふる、同じ意味の英単語を付けるなどの工夫をしてください。あるいは章や節の冒頭などで、初めて出てくる専門用語の一覧をふりがなを付けて示すことも学生の理解に役立ちます。また、本の最後に専門用語の索引があると、これまでの学習を振り返りたいと思った時に役立ちます。

このガイドラインは留学生向けの教科書を対象にしています。ですから、専門用語は難しくてもそのまま使う、という決まりを最優先の「鉄則 1」として扱うことにします。

ひらがなで書く

「～のこと」「～のうちに」のような表現は、漢字でもひらがなでも書けます。これらの表現は、形式名詞あるいは補助動詞というグループに属していて、それだけで使うことができない単語です。『言語表現技術ハンドブック』(pp. 58-59) には、以下のような言い換え語のリストが示してあります。

表 1 言い換え語のリスト

	漢字	ひらがな
形式名詞	内	うち
	事	こと
	為	ため
	通り	とおり
	時	とき
	所	ところ
	共に	ともに
	筈	はず

	他 物 故 訳	ほか もの ゆえ わけ
補助動詞	出来る て行く て戴く て来る て見る 無い て良い かも知れない と言う事 過ぎない の様な	できる ていく ていただく てくる てみる ない てよい かもしれない ということ すぎない の様な

これらの表現については、特別な理由がない限り、ひらがなを使ったほうがわかりやすいようです。

また、「彼」「彼女」を除く代名詞、「或る」などの連体詞、「飽くまで」などの副詞、助詞・助動詞なども、ひらがなで書くようすすめています。以下にいくつか例をあげておきます。

表 2 ひらがなにしたほうがよい語のリスト

	漢字	ひらがな
代名詞	彼方 其れ	あなた それ

	此れ	これ
連体詞	或る 来る 所謂	ある きたる いわゆる
副詞	飽くまで 絶えず 恐らく 既に	あくまで たえず おそらく すでに
助詞・助動詞	程 無い 様だ	ほど ない ようだ
その他	及び 並びに 等	および ならびに など

鉄則 ● 専門用語はそのまま使う

推奨 ● 専門用語には、ふりがなや一覧などを作ることにより
やすくする工夫をする

- ひらがなで書ける語はひらがなで書く

2 不要な表現を避ける

文章を書くときに、しばしば不要な表現を使うことがあります。
例えば、二重否定や不要なくり返しです。これらの表現は、文を
長くしたり、文をわかりにくくしたりします。できるだけ必要のない言葉
を使わず、文を短くわかりやすくすることが、留学生の理解を助けます。

以下に6項目の例をあげます。

二重否定を避ける

「できないわけではない」「しない者はいない」などの二重否定は、すべて肯定文であらわすことができます。たとえば、「できないわけではない」は「できることもある」に、「しない者はいない」は「みんなする」に、書き換えられます。

二重否定には、単純な肯定とは違うニュアンスがありますが、日本語に慣れていない人には難しい表現です。できるだけ肯定文で書いたほうが、わかりやすくなります。

文末をあいまいにする表現を避ける

「と思われる」、「と考えられる」、「と言われる」のように、断定を避けて文末をあいまいにする表現があります。また、「かもしれない」、「だろう」のような表現も断定を避け、文末をあいまいにする効果があります。多くの場合、これらの表現を省いたほうが、意味をはっきりさせることができます。

まわりくどい言い方は避ける

二重否定のほかにも、まわりくどい言い方はたくさんあります。たとえば、「実験を遂行する」「観察の過程において」といった表現です。これらはそれぞれ「実験する」「観察すると」といった表現に置き換えることができます。また、置き換えることで、文の長さを短くできます。

「のである」「のだ」を省く

「のである」と「のだ」は、ほとんどの場合省くことができます。

このように、作るということは尊いのである。

エジソンが電燈を発明したのだ。

本当に必要な表現かどうかを考える

「あたかも」「かくして」などの難しい表現は、多くの場合、省略したり言い換えたりできます。たとえば以下の文で、「あたかも」は省略できます。

観測者は、光がA点で曲がったことはわからないため、P点はあたかもEAの延長上のB点であるように感じる。だから、実際より浅い場所にP点があるように見える。

必要のない繰り返しは避ける

以下の文には、不要な繰り返しがあり、それを省略しても意味は変わりません。打ち消し線の部分は省略できます。

原子のほうは電子構造により安定化の度合いが異なるので、励起に必要なイオン化エネルギーの値や、電子を受けとる際の安定化エネルギーである電子親和力の値は、元素の種類やイオン化の進行状況の違いによってそれぞれ異なるエネルギー値をとる。

ただし、これらの注意を守ると情報が正しく伝わらなかったり、かえってわかりにくくなったりする時には、正しさやわかりやすさを優先してください。

- 推奨**
- 二重否定やまわりくどい言い方、不要なくり返し、文末をあいまいにする表現を避ける
 - 不要な言葉を省く

3

できるだけ能動態を使う

英語や日本語には、能動と受動（受け身）という二つの態があります。能動態を使うのは、動詞があらわす動作を主語が行う時で、受け身を使うのは、主語が動詞のあらわす動作の対象になるときです。たとえば、「太郎はラーメンを食べた」は能動の文で、食べるのは主語の太郎です。「ケーキは太郎に食べられた」は受け身の文で、主語のケーキは「食べる」という動作の対象になっています。日本語では、動詞に「れる」「られる」という助動詞をつけて動詞の受け身の形を作ることができます。

受け身の文を使うと、「ケーキが食べられた」のように誰が動作を行うのかを隠すことができます。また、英語で論文を書くときには、結論や意見を客観的に示すために受け身を使うよう指導されます。そのため、専門的な教育を受けた人ほど、受け身をたくさん使う傾向があります。

しかし、受け身の文は能動文と比べて、構造が複雑です。そのため、留学生にとってわかりにくい文になることがあります。「れる」「られる」という受け身の形ではなくて、動詞の言い切りの形を使うようにすることで、わかりやすい文にできます。また、主語がわからないことによるあいまいさを避けられます。

ただし、これにはいくつか例外があります。OPE では、以下の場合には、受け身を使ったほうがわかりやすいとしています。

- ・誰が動作を行うのかが必要な情報ではない場合、またそれが文脈からはっきり分かる場合
- ・動作の対象を取り上げるのが大事である場合
例：「アルコールは天然ガス・石油・石炭の副産物から工業的に生産されている」
- ・旧情報（すでに知られている情報）を文の先頭に置き、新情報（知られていない情報）を文の後ろに置く場合

例：「計算機においてプログラムやデータを収める部分をメモリと呼ぶ。メモリは、現在はシリコンなどの半導体によって作られているが、以前は、小さな磁石やガラス管に封じ込められた水銀などが用いられた」

OPE では、受け身の文が全文章の半分以上を超えないことを目安として、受け身文を減らすように勧めています。

推奨 ● 受け身の文は全体の半分以上にする

4

名詞の連続を避け、動詞を用いる

名詞の連続を避ける

日本語では、ひとつながりの名詞のかたまり（複合名詞）を簡単に作ることができます。特に教科書のような硬い文章の中で、複合名詞がよく使われます。「ガラス管封入素子」「気体膨脹」「物体表面温度」「ケトン酸化実験」などがその例です。これらの表現を使うと、助詞などを省いて文を短くできます。

しかし、複合名詞は、留学生にとっては難しい表現になる可能性があります。なぜなら、複合名詞のそれぞれの部分の間には隠された関係があるからです。

たとえば「ガラス管封入素子」は「ガラス管（に）封入（された）素子」という意味です。日本人はこの関係をおぎなって読むことができます。しかし留学生にとっては、関係をおぎなうのは難しいことです。関係があいまいであったり連続が長くなったりすると、おぎなうのはさらに難しくなります。

助詞などをおぎなうことで、読み手の負担を減らすことができます。上の例でいえば、「気体膨脹」「物体表面温度」「ケトン酸化実験」の代わりに、「気体の膨脹」「物体の表面温度」「ケトンを酸化させる実験」とすると、よりわかりやすくなります。

ただし、このような複合名詞が専門用語として使われる場合には、助詞などをおぎなう必要はありません。これは、「専門用語は難しくてもそのまま使う」という鉄則¹にあわせたものです。したがって、「気体膨脹定数」「第一イオン化エネルギー」などの専門用語は、そのまま使います。

漢語サ変名詞の扱いについて

「動作」や「研究」のように「する」を付けると動詞として使うことができる漢字2文字（1文字あるいは3文字のもの、少しあります）からなる名詞を、漢語サ変名詞といいます。ある研究によれば、日本語の単語のおよそ9分の1がこの漢語サ変名詞だそうです。

漢語サ変名詞は、漢字からなる語なので、たくさん使うと留学生にはわかりにくくなってしまいます。ただし、中国など、もともと漢字を使う地域から来た留学生には漢字を使うほうがわかりやすいこともあります。サ変名詞をそのまま使うか、日本語の動詞に直すかは読む人がどのような人なのかをよく考える必要があります。

漢字を使わない地域から来た留学生は、できるかぎりサ変名詞を使うのを避けて、意味の同じ和語動詞を使うようにしたほうが、わかりやすくなります。たとえば、「試薬の使用を忌避する」と書かずに、「試薬は使わない」と書きます。

このように書き換えると、書き換えたあとの文のほうが長くなるかもしれませんが、これは、「文を短く」という決まりを破ることになります。しかし、読み手にとってのわかりやすさのほうが大事なので、書き換えたほうがよいと思います。

ただし鉄則 1 に従って、漢語サ変名詞でも専門用語はそのまま使うことにします。

推奨 ● 長い複合名詞は避ける

- 漢語サ変名詞は言い換えできないか考えてみる

5

文章が複雑になる時には、表やリストを用いる

文章が長く複雑なものになる時には、表やリストを使うほうがわかりやすくなります。同じ項目が繰り返される場合には表が、実験のやり方や手続きを示す場合にはリストが優れています。

たとえば、以下の文について考えてみましょう。

実験の結果、25 度の水 100g に、ショ糖（式量 342.3）は 204g、ヨウ化カリウム（式量 166）は 148g、塩化アルミニウム（式量 133.3）は 48g、塩化バリウム（式量 208.2）は 37g 溶解することがわかった。

これを表にすると以下ようになります。

表 2 25 度の水 100g に溶けた物質の重量

物質名	式量	溶けた物質の重量 (g)
ショ糖	342.3	204
ヨウ化カリウム	166.0	148
塩化アルミニウム	133.3	48
塩化バリウム	208.2	37

リストは、流れに沿って説明したり、選択肢を示したりする場合に使います。たとえば、以下の文は、リストを使うと、よりわかりやすくなります。

成田空港から長岡技術科学大学への行き方（書き換え前）

まず、成田空港の地下1階（B1F）にある京成線のきっぷ売り場で日暮里までのきっぷを買う。買ったなら地下2階（B2F）にあるホームから「上野行き」の電車に乗り、日暮里の駅で降りる。日暮里の駅でJRの電車に乗り換える。乗り換え口でJRの切符（130円）を買い、JRの駅の改札を通して、9・10番線のホームに行く。来た電車（青い電車か緑の電車）に乗り、2つ目の上野駅で降りる。

上野駅で降りたら新幹線の改札前に行き、そこで長岡までの切符を買って、改札をとおり、地下5階（B5F）の上越新幹線ホームで「新潟行き」の上越新幹線に乗る。長岡駅に着いたら新幹線から降りて改札を通り、駅の手口側に出る。バス乗り場の7番乗り場から「技大行き」のバスに乗る。

◎成田空港から長岡技術科学大学への行き方（書き換え後）

- 1 成田空港 B1F の京成線きっぷ売り場で「^{にっぽり}日暮里」までのきっぷを買う。
- 2 B2F の京成線ホームで「^{うえの}上野行き」の電車に乗る。
- 3 日暮里の駅で降りて、JR に乗り換える。130 円のきっぷを買い、JR の改札を通る。
- 4 9・10 番線ホームで青い電車か緑の電車に乗る。
- 5 2つめの上野駅で降りる。新幹線の改札の前で^{ながおか}長岡までのきっぷを買う。
- 6 改札を通り、B5F の上越新幹線ホームで「^{にいがた}新潟行き」の上越新幹線に乗る。
- 7 長岡駅に着いたら新幹線を降りて改札を通り、駅の^{おわてぐち}大手口側に

出る。

- 8 バス乗り場があるので、7 番乗り場から「^{ぎだい}技大行き」のバスに乗る。

リストを作る場合には、流れに沿ってそれぞれの行の最初に番号や記号を付けます。選択肢を示す場合には、番号や記号を使い分けることで、各項目間の階層構造を示すことができます。このため、各項目の関係が入り組んでいる場合でも、リストを使うと、内容をわかりやすく伝えることができます。

試薬ビンに貼るラベルを長持ちさせるために、ラベルの上にパラフィンあるいはコロジオンを塗るか、セロテープを貼っておくと試薬類に侵されにくくなる。ラベルの文字は油性のマジックか1%フェノール水溶液ですった墨で書くと長持ちする。

◎試薬ビンに貼るラベルを長持ちさせる方法

- 1 ラベル面を保護する
 - I パラフィンかコロジオンを塗る
 - II セロテープを貼る
- 2 インクに工夫する
 - I 油性のマジックを使う
 - II 1% フェノール水溶液ですった墨を使う

規則や手続きなどがとても複雑で、リストでも説明することが難しい時には、フローチャートを使います。フローチャートはリストや表に比べて書くのが難しく、大きなスペースが必要になります。しかし、流れにそって必要な情報を見つけることができるので、読み手には大変わかりやすい

ものになります。フローチャートの書き方については、付録を参照してください。

推奨 ● 複雑な文章の代わりに表やリストを使う

6

重要なポイントは、肯定文で書く

できるかぎり否定的な言い方を使わず、肯定文を使うようにすることで、文がよりわかりやすくなります。特に重要なポイントは、肯定文で書いたほうが内容がよく伝わります。

否定的な言い方とは、形容詞の「ない」や打ち消しの「ず」、動詞の「否定する」「否認する」など、そして呼応表現の「一人も……ない」「ほとんど……ない」などです。たとえば、

二人以上に投票してはならない。

という言い方は「一人に投票してください。」と言い換えることができます。

また否定的な言い方を避けるというのは、「二重否定を使わない」というガイドラインを守ることにもつながります。たとえば、

特別なケアが必要な子供を支援できないというのは普通ではない。

は、書き換えて、

特別なケアが必要な子供を我々は普通に支援できる。

としたほうがわかりやすくなります。また以下の例、

すべての事前チェックがすむまで電源を入れないこと

は、次のように書き換えることができます。

事前チェックをすべて終えてから電源を入れること

もちろん、条件を述べたり何かを禁止したりするときに、否定的な言い方をしたほうがわかりやすい時もあります。その時は、わかりやすさを優先すべきです。

推奨 ● 重要なポイントは肯定文で書く

7 相互参照や注は最小限にする

相互参照や注をたくさん用いると、読み手はいま自分がどこを読んでいるのかを見失ってしまいます。読み手の目の動きが自然に流れるように注意して文章を書くことが大事です。

いくつかの学会では、注をできるかぎり減らし、内容は本文に盛り込むことを投稿規定に書いています。注を付けなければならない場合にも、同じページの下部や横など、なるべく目の動きが小さくなるような位置につけ、読み手が簡単に元の位置に戻れるようにします。

推奨 • 相互参照や注は最小限にする

8

句読点や約物は正しく使う

わかりやすい文章を書くためには、句読点の使い方をよく知る必要があります。日本語の句読点や約物には、句点（まる）・読点（てん）・中黒（なかぐろ）・カギカッコ・その他のカッコなどがあります。感嘆符や疑問符、ハイフンなどもしばしば使われます。

句読点の中で特に重要なのが、文の論理的な構造をあらわす句点・読点です。

なかでも、読点をどこに置くかは大変に難しい問題です。1946年に当時の文部省が出した規則があって、ときどき文章読本などで引用されています。しかし、その規則は13個の決まりでできていて、守るのがかなり大変です。ここでは、本多勝一の『日本語の作文技術』から、2つの規則からなる簡単な読点の打ち方を紹介します。

この規則を紹介する前に日本語の語順の規則を説明しておきます。これは、語順の規則と読点の打ち方の規則との間に強いつながりがあり、語順の規則を守ると、多くの場合、読点は必要ないからです。語順については次の9節で、読点の打ち方は10節で説明します。

9

日本語の基本的な語順を守る

日本語は、英語などに比べると語順が比較的自由な言語です。しかし「いつ」「どこで」「誰が」「誰に」「何を」「どうする」という順に並んだ文が、日本人にはもっとも自然な文として感じられるようです。以下の例1と例1'を比較してみてください。1'は、1よりも不自然だ

と感じられる語順です。

1 昨日学校で先生がわたしたちに夏休みの予定を聞いた。

1' わたしたちに夏休みの予定を昨日先生が学校で聞いた。

ただし、助詞「は」のついた文の要素は、例2のように文の先頭に出ようとします。2'は少し不自然に感じられる語順です。

2 残しておいたケーキは、妹が夕方食べてしまったみたいです。

2' 妹が夕方、残しておいたケーキは食べてしまったみたいです。

また例3、4のように、強調したい要素も文の先頭に置きます。

3 この節操のなさを、わたしは日本文化の最も大きな特徴であると思っています。

4 誰もが古いと考えていた理論に、この問題を解くカギがあった。

さらに、前の文を受けて新しく文を始める場合、前の文に含まれている要素と関係の深い要素は、例5のように前のほうに出ようとします。5'よりも5のほうが自然に感じられます。

5 ろ紙を使って沈殿した物質をこし取る。こし取った物質をビーカーに取ってさらに水洗いする。

5' ろ紙を使って沈殿した物質をこし取る。ビーカーにこし取った物質を取ってさらに水洗いする。

文の各要素の長さも、語順を決めることに関わってきます。動詞にかか

る要素は、例6のように、長い要素ほど前に、短い要素ほど後ろに来よう
とします。そして、そのように並んでいる文のほうがよりわかりやすくな
ります。

6 [インターネットからダウンロードしたファイルが][指定
したディレクトリに][大量に] 保存してあります。

6' [大量に][指定したディレクトリに][インターネットからダ
ウンロードしたファイルが] 保存してあります。

ここで、「インターネットからダウンロードしたファイル」「指定したディ
レクトリ」「大量に」は、この順で長く、従って文章の最初からこの順で
並べた文がよりわかりやすい文になります。6'の文では「大量に」が「指
定した」と「保存して」のどちらにかかるといえるのがあいまいです。いっぽう、
6の文にはあいまいさがなく、「大量に」が「保存して」にかかることが
わかります。

これは、名詞にかかる要素の場合でも同じです。例7と7'を比べてく
ださい。

7 [バクテリアを使って海水から回収された][原子炉で使用可能
な][高純度の] ウラン

7' [高純度の][原子炉で使用可能な][バクテリアを使って海水
から回収された] ウラン

[] でかこんだ3つの要素は、それぞれが「ウラン」にかかります。
それぞれの要素を切り分けるのは、7では難しくありませんが、7'では難
しいです。7'は、7''と7'''のように、間違っても2つに切ってしまう可能性
があります。

7" [高純度の] [原子炉で使用可能なバクテリアを使って海水から
回収された] ウラン

7'" [高純度の原子炉で使用可能なバクテリアを使って] [海水から
回収された] ウラン

動詞や名詞にかかってそれに意味を付け加えたり、意味を限定したりするために使われる語の連なりを修飾節といいます。上の2つの例からは、修飾節は長いものから短いものの順で並べることが日本語の原則であることがわかります。

次に、語順の規則を念頭に置きながら、日本語の読点の使い方について考えていくことにします。

- 
- 推奨** ● できるだけ基本的な語順を守る
● 修飾節は、長いものほど前に置く

10

読点は規則に従って打つ

前の節の最後で見たように、修飾節を長いものから短いものへと並べるとわかりやすい文になります。また、読点もいりません。

逆に短い要素が何らかの理由で前に出た時には、読点がないと意味がいまいになったり、わかりにくくなったりします。下の例1、2を見てください。

- 1 渡辺さんは血まみれになって逃げる泥棒を追いかけた。

- 2 その溶液を 100 度まで加熱したあと冷ましておいた溶液 B に加える。

例 1 では、「は」を使ったために、それが付いた要素「渡辺さん」が文の先頭に出ています。その結果、1' と 1'' のように、「血まみれになった」のが「渡辺さん」なのか「泥棒」なのかがあいまいになっています。

1' [渡辺さんは血まみれになって] [逃げる泥棒を] 追いかけた。

1'' [渡辺さんは] [血まみれになって逃げる泥棒を] 追いかけた。

例 2 では「その溶液」という要素を文の先頭に出しています。その結果 2' と 2'' に示すように、「100 度まで加熱する」のが「その溶液」なのか「溶液 B」なのかがあいまいになっています。

2' [その溶液を 100 度まで加熱したあと] [冷ましておいた溶液 B に] 加える。

2'' [その溶液を] [100 度まで加熱したあと冷ましておいた溶液 B に] 加える。

以下の例 1''' と例 2''' に示すように、最初の要素の後ろに読点を打つことで例 1 と 2 のあいまいさをなくすことができます。

1''' 渡辺さんは、血まみれになって逃げる泥棒を追いかけた。

2''' その溶液を、100 度まで加熱したあと冷ましておいた溶液 B に加える。

読点は、基本的な語順とは異なる語順で文の要素を並べるときに打てば

よいことがわかります。

次に以下の例3と例4について考えてみましょう。

3 電流は電流計で電圧は電圧計ではかる。

4 生物は自ら動いて栄養をとる動物と自らは動かず栄養を自分で作り出す植物にわかれる。

上の二つの文には読点がありません。それぞれの文に読点を打つとすれば、それは次のようになると思います。

3' 電流は電流計で、電圧は電圧計ではかる。

4' 生物は、自ら動いて栄養をとる動物と、自らは動かず栄養を自分で作り出す植物にわかれる。

4'の1つめの読点は、「基本的な語順と違う並べ方で文の要素を並べるときに読点を打つ」という原則に従ったものです。3'の読点と4'の2つ目の読点は、「はかる」と「わかれる」というそれぞれの文の動詞にかかる修飾節の境目に打たれています。つまり、読点は2つ以上の修飾節が1つの語にかかるときに打てばよいことがわかります。

鉄則 ● 基本的な語順と違う並べ方で文の要素を並べるときに読点を打つ
● 2つ以上の修飾節が1つの語にかかるとき、修飾節の境目に読点を打つ

11

あいまいな文を減らす

主語と述語をきちんと対応させる

日本語では、主語がよく省略されます。特に、前後の文から主語がわかるときには、主語を書くことのほうが少ないようです。しかし、前に述べたように、主語を書いたほうが読み手にはわかりやすくなります。

また、主語と述語がきちんと対応していない文は、読み手を混乱させます。長い文を書くとき、わたしたちは主語と述語が対応しない文を書いてしまいがちです。主語の位置を工夫したり、文を短くしたりして、主語と述語がきちんと対応している文を書くことで、読み手の混乱を防ぐことができます。

文は短く

日本語を学び始めたばかりの留学生は、長すぎる文を難しく感じます。1つの文の長さを短くするために、50字を基準にして、それ以下の長さになるように心がけてください。そのために、まず、名詞を修飾する長い節を使わないで書くことを守ってください。以下の下線部が名詞を修飾する長い節の例です。

糖蜜などの不純物を取り除くために3度にわたって「研ぎ」を加えられベージュ色になった和三盆は、型に入れて固められ、菓子として茶事などで使われる。

これは、以下のように書き換えれば、2つの短い文になります。

和三盆は、糖蜜などの不純物を取り除くために3度にわたって「研

ぎ」を加えられ、ページ色になる。そして、和三盆は、型に入れて固められ、菓子として茶事などで使われる。

このように書き換えると、文を短くし、わかりやすくなります。

もうひとつ大事なことは、「が」を逆接の意味で使うことです。以下の例の「が」は、文と文をつなぐために使われています。しかし、逆接の意味ではありません。そして、文を無駄に長くし、2つの文の関係をあいまいにしています。

たくさんの人がこの遊園地に来ています、みんな何を一番の楽しみとしているのでしょうか。

この例文は以下のように書き直すことができます。

たくさんの人がこの遊園地に来ています。みんな何を一番の楽しみとしているのでしょうか。

このように、逆接の意味を表さない「が」は使わないように書き換えましょう。

指示語は具体的な語に置き換える

「これ」「その」「そのような」などの指示語は、具体的な語で置き換えると、読む人にとってわかりやすい文になります。置き換えることによって、書き手にとってははくどく感じる場合もあると思います。しかし、多少くどいくらいのほうが、日本語を学び始めたばかりの読み手にはわかりやすいでしょう。

- 推奨
- 文はできるだけ短くする
 - 指示語は具体的な語に置き換える

コラム：文の長さについて

英語の場合、文の長さが文のわかりやすさを測る指標の1つとなっていることが、実験によって明らかになっています。日本語では、大人を対象とした同種の実験はまだありません。しかし、小学校の国語教科書を分析した調査によると、日本語では、文の長さと文の難しさとはあまり関係がないことが明らかになっています。

また、『よくわかる文章表現の技術』では、文の短さがわかりやすさにつながらない場合があるとされています。特に、以下の2つの場合では、1つの長い文を2つの短い文に分けるとかえってわかりにくくなるとされています。

◎「ながら」「つつ」「して」のような手段や状況をあらわす語が使われている場合

◎条件をあらわす「ば」「たら」「なら」や、目的をあらわす「ために」「ように」「のに」が使われている場合

このように、文を短くすることでかえってわかりにくくならないように注意することが大切です。

第3章 実際に書き換えてみる

1 ガイドラインに沿った書き換え

以下の文を書き換えてみましょう。

ワイリー法によって初めて無秩序に流通していた粗悪な食品や医薬品に対して連邦政府は全般的な規制権限を与えられたのである。

上の例では、主語の「連邦政府は」を文の最初にしたほうがわかりやすくなります。また、読点がないので文の各要素の関係がわかりにくいです。そこで、読点に関する規則と、修飾語の順序に関する規則を使って、文の各要素の順序を入れ替え、読点を打ちます。すると、以下のような文になります。

連邦政府は、ワイリー法によって初めて、無秩序に流通していた粗悪な食品や医薬品に対して全面的な規制権限を与えられたのである。

次に、以下の文について考えてみましょう。

手工業者のギルドは11世紀末に成立したが、都市の発達、市場の確立、道具の制作、建築術、金属利用の進歩などにより、手工業者が分化し、13世紀には多くのギルドが成立した。

上の文は、83文字と少し長いです。そして、逆接の意味を持たない「が」

を使っています。そこで、「逆接以外の“が”を使わない」の原則に従い、書き換えてみます。また、「11世紀」と「13世紀」を比べたいので、語順を入れ替えて、わかりやすくします。

手工業者のギルドは11世紀末に成立した。そして、13世紀には、都市の発達、市場の確立、道具の制作、建築術、金属利用の進歩などにより、手工業者が分化し、多くのギルドが成立した。

このようにすると、文章がやさしくなります。しかし、なんでも自分でやるのは大変です。難しい言葉をやさしいものに書き換えたり、長すぎる文章を短いものに書き換えたりするときは、機械に手助けしてもらおうと案です。

そこで、便利なツールを紹介します。東京国際大学の川村よし子先生が開発した「チュウ太」と、本UDプロジェクトで開発した「PJシステム」です。以下で、使い方を簡単に解説します。

2 チュウ太を使った書き換え

チュウ太は、いろいろなことができる道具箱です。チュウ太のURLを紹介します。

チュウ太のURL：<http://language.tiu.ac.jp/>

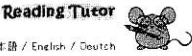
チュウ太では「辞書」と「レベル判定」「文型」の3つを調べることができます。「レベル判定」の「語彙」を使って、以下の文章を簡単にしてみます。

この文書は、留学生向けの教科書を、わかりやすい日本語で書いた

めのガイドラインです。このガイドラインの項目のかなりの部分は、“Oxford Plain English”（以下では OPE）という、わかりやすい英語で書くためのガイドラインの各項目からとられています。その他には、『よくわかる文章表現の技術』（明治書院）、『言語表現技術ハンドブック』（大阪工大言語表現技術研究会）などを参照しています。この文書は確定的なものではありません。これから共同作業の中で得た教訓などを取り入れて改良していきたいと考えています。

この文章をチュウ太に入力して、「語彙」というボタンを押すと、次の図 1 のような画面が出てきます。

図 1 チュウ太で分析（書き換え前）



日本語 / English / Deutsch

リーディング チュウ太

入力された文章

この文書は、留学生向けの教科書を、わかりやすい日本語で書くためのガイドラインです。このガイドラインの項目のかなりの部分は、“Oxford Plain English”（以下では OPE）という、わかりやすい英語で書くためのガイドラインの各項目からとられています。その他には、『よくわかる文章表現の技術』（明治書院）、『言語表現技術ハンドブック』（大阪工大言語表現技術研究会）などを参照しています。この文書は確定的なものではありません。これから共同作業の中で得た教訓などを取り入れて改良していきたいと考えています。

級外 8 (6)

ガイドライン	3
明治	1
書院	1
ハンドブック	1
大阪	1
工大	1

1級 7 (6)

文書	2
参照	1
確定	1
教訓	1
改良	1

2級 19 (15)

向け	1
教科書	1

単語レベル ★★★★★ 少し難しい

総数	語彙総数	級外	1級	2級	3級	4級	その他
135	109	8	7	19	11	64	26
(79.3%)	(100.0%)	7.3%	6.4%	17.4%	10.1%	58.7%	23.8%
(78)	(66)	(6)	(6)	(15)	(3)	(31)	(12)
119.2%	100.0%	9.1%	9.1%	22.7%	12.1%	47.0%	18.2%

文章が単語に分けられて、単語の難しさが色でわかります。赤の太字は級外です。級外とは、日本語能力試験の単語リストにない単語のことです。そして、1級、2級の順で簡単になっていきます。両面の左下に表があります。この表で、どの級の単語がいくつあるのかがわかります。級外と1級の単語をできるだけ減らすと、簡単な文章になります。

そこで、次のように文を書き換えました。

この冊子は、留学生向けの教科書を、わかりやすい日本語で書くためのガイドラインです。このガイドラインの項目のかなりの部分は、“Oxford Plain English”（以下では OPE）という、わかりやすい英語で書くためのガイドラインの各項目から取りました。その他には、『よくわかる文章表現の技術』（明治書院）、『言語表現技術ハンドブック』（大阪工大言語表現技術研究会）などを参考にしています。このガイドラインは、完成したものではありません。これからみなさんの意見を取り入れて、よりよくしていきたいと考えています。

ガイドラインという言葉は専門用語なので、そのまま使いました。「参照」を「参考」に換えて、「改良」を「よりよく」というやさしい単語にしました。また、「教訓」という単語を替えると意味がわかりにくくなるので、文を書き換えました。これをチュウ太に入力すると次ページの図2のようになります。

図2でわかるように、1級の単語はありません。また、級外の単語は、固有名詞だけです。

この『UD 流！文章術』の全体に対して、チュウ太を使って、書き換えました。チュウ太を使う前は、1級の単語が400くらいありました。しかし、チュウ太を使った後は、1級の単語は全部で20くらいになりました。1級の単語を減らすと、やさしくて、わかりやすい文章になります。

図2 チュウ太で分析（書き換え後）

リーディング チュウ太

Reading Tutor

日本語 / English / Deutsch

入力された文章

この冊子は、留学生向けの教科書を、わかりやすい日本語で書くためのガイドラインです。このガイドラインの項目のかなりの部分は、“Oxford Plain English”（以下ではOPE）という、わかりやすい英語で書かれたもののガイドラインの名目から取りました。その他には、『よくわかる文章表現の技術』（明治書院）、『言語表現技術ハンドブック』（大阪工大言語表現技術研究会）などを参考にしています。このガイドラインは、完成したものではありません。これからみなさんの意見を取り入れて、よりよくなっていくことを目指しています。

級外 10 (7)

冊子	1
ガイドライン	4
明治	1
書院	1
ハンドブック	1
大阪	1
工大	1

1級 0

2級 20 (15)

向け	1
教科書	1
日本語	1
項目	2
かわり	1
部分	1

単語レベル ★★★ ふつう

総数	語彙総数	級外	1級	2級	3級	4級	その他
149	119	10	1	20	14	74	30
125.2%	100.0%	8.4%	0.8%	16.8%	11.8%	62.2%	25.2%
(82)	(70)	(7)	(1)	(15)	(11)	(36)	(12)
117.1%	100.0%	10.0%	1.4%	21.4%	15.7%	51.4%	17.1%

「チュウ太」についてもっと知りたい方は、『チュウ太の虎の巻——日本語教育のためのインターネット活用術』（川村よし子著、くろしお出版）を参考にしてください。

3

PJ システムを使った書き換え
PJ システムを紹介します。
以下の URL にアクセスしてください。

<http://twinning.nagaokaut.ac.jp/PJ/PJ.html>

PJ システムを使って文章を入力すると、長過ぎる文や、長い修飾節が

わかります。以下は入力した文章です。

文章全体をどう構成するかを示すのは困難な問題です。文章全体の構成をどのように作り上げていくかについて、OPE では、まず大きな紙を横向きにして章ごとの題を横に書き並べ、各章の詳しい内容については、章ごとの題の下に並べていくという方法を紹介しています。上から下へという方法です。構成法については他にも下から上へという方法もあります。また人によって好みのやり方が違いますので、こうしなければならない、ということは言うことはできません。作成された文章の構造をつかみやすいことが大事です。

この文章を入力窓に入れて SEND ボタンを押すと、次ページの図3のような画面になります。

判定結果にある赤い点線は、文が長すぎるという意味です。変換案にある四角は、修飾節が長いという意味です。また、オレンジの文字は、難しい単語をやさしい単語に換えたという意味です。

このようなツールを使うことで、文章をわかりやすくすることができず。ぜひ、使ってみてください。

図3 PJシステムで分析

PJ system

Plain Japanese ガイドライン

about

Input a Japanese text

ここにテキストを入力してください

方法です。構成法については他にもトから上へという方法もあります。また人によって好みのやり方が違いますので、こうしなければならない、ということは言うことはできません。作成された文章の構造をつかみやすいことが大事です。

CLEAR

SEND

判定結果

文章全体をどう構成するかを示すのは困難な問題です。文章全体の構成をどのように作り上げていくかについて、OPEでは、まず大きな紙を横向きにして章ごとの題を横に書き並べ、各章の詳しい内容については、章ごとの題の下に並べていくという方法を紹介しています。上から下へという方法です。構成法については他にも下から上へという方法もあります。また人によって好みのやり方が違いますので、こうしなければならない、ということは言うことはできません。作成された文章の構造をつかみやすいことが大事です。

変換案

文章全体をどう構成するかを示すのは難しい問題です。文章全体の構成をどのように作り上げていくかについて、OPEでは、まず大きな紙を横向きにして章ごとの題を横に書き並べ、各章の詳しい内容については、章ごとの題の下に並べていくという方法を紹介しています。上から下へという方法です。構成法については他にも下から上へという方法もあります。また人によって好みのやり方が違いますので、こうしなければならない、ということは言うことはできません。作成された文章の構造をつかみやすいことが大事です。

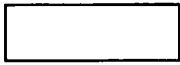
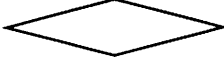
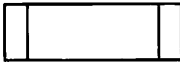
付録 フローチャートの書き方

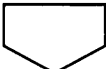
フローチャートの書き方は、JIS 規格 (JIS X0121) で決まっています。また、国際規格として ISO5807 があります。これらは、コンピュータプログラムの処理手順など、情報処理の分野で使います。JIS と ISO の間の違いは、JIS がループ (同じ動作の繰り返し) に特別な記号を使うのに対して、ISO にはその記号がないところです。

ここでは、ISO 式の記号を用いたフローチャートの書き方を簡単に説明します。フローチャートを書くときには、判断や処理や入出力の中身をはっきりさせる必要があります。そのため、それらを誰にでもわかりやすい形で示すことができるという効果もあります。

フローチャートを書くために使う要素には、以下のようなものがあります。

表 3 フローチャートで使う記号

要素	名称	説明
	端子	フローチャートの始まりと終わりをあらわす。
	処理	行う処理をあらわす。
	判断	条件によって処理が分かれることを示す。
	別に定義された処理	そこに示してある処理が、別のところで詳しく説明されていることをあらわす。

	出入力	処理に対する出力と入力であらわす。
	ページ内結合子	同じページの別の場所に処理がつながることをあらわす。
	他ページ結合子	別のページに処理がつながっていることをあらわす。

フローチャートは、表3の要素を矢印でつなぎます。矢印はできるだけ離すようにします。「別に定義された処理」を使うと、フローチャートが複雑になりません。

右ページの図4は、フローチャートの例です。フローチャートは、Wordでも作れます。また、無料のソフトウェアのDiagram Designerを使うこともできます。Diagram Designerは、以下のURLにあります。

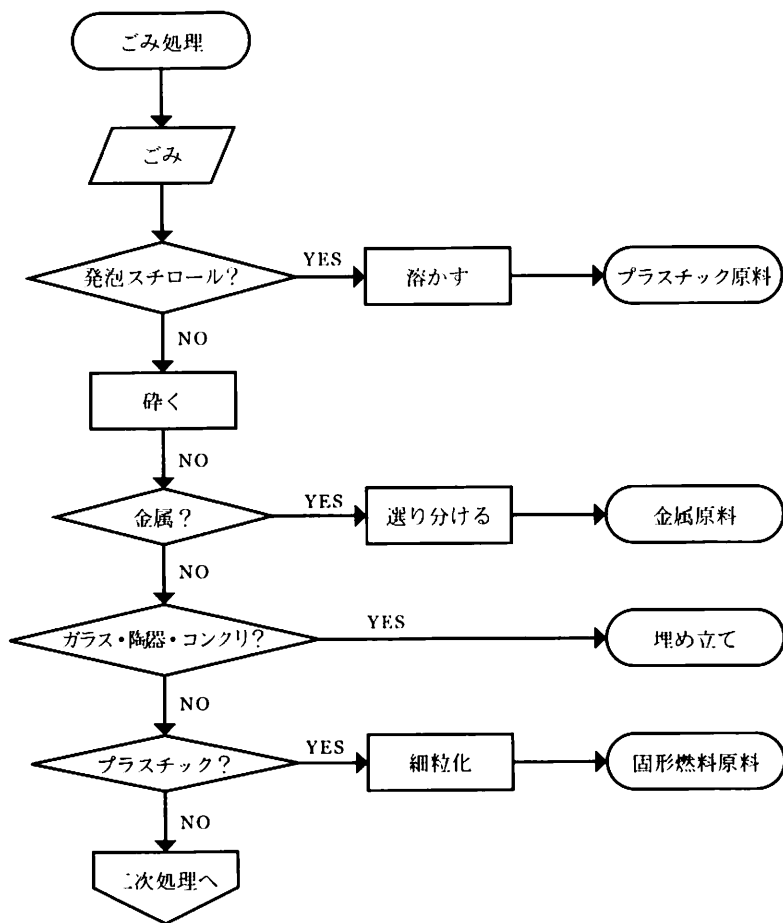
Diagram Designer URL:

http://www.freewarefiles.com/Diagram-Designer_program_8116.html

図4では「砕く」「選り分ける」という処理を一つにまとめていますが、それぞれもっと細かく分けて書くこともできます。そのときには、「別に定義された処理」の記号を使って、詳しい説明を別のところに書きます。

フローチャートよりも、詳しく分析することができるツールがあります。UML (Unified Modeling Language) です。これはとても便利ですが、使うのが難しいです。参考文献を紹介しますので、興味のある方は読んでください。

図4 フローチャートのサンプル



参考文献

最後に、この冊子を書くにあたって参考にした本を紹介したいと思います。

1、Martin Cutts, *Oxford Guide to Plain English*. Oxford University Press. 3rd ed. 2009.

この本は、なぜ、わかりやすく書く必要があるのかという話から始まっています。そして、やさしい英語で書くために守るべきガイドラインを解説しています。この本の優れているところは、第1章の前にある“Summary of Guideline”を読めば、わかりやすい英語で書けるようになることです。本パンフレットは、この本のかなりの部分を参考にしています。

2、川村よし子『チュウ太の虎の巻——日本語教育のためのインターネット活用術』くろしお出版、2009年。

単語のチェック機能以外にも、チュウ太のページでできることはたくさんあります。それらをチュウ太の生みの親である川村先生が解説した本がこれです。文法のチェックなどこの冊子では触れなかった機能についても説明があります。また、チュウ太のページから行くことのできるリンクについても、ていねいな解説がついているので、コンピュータを使って文章を書くときに役立ちます。

3、大阪工業大学言語表現技術研究会『言語表現技術ハンドブック』晃洋書房、2008年。

本書の「はじめに」にもあるように、「事実」と「説明」を基本におい

た言語表現の技術を手にすることに目的を絞った本です。日本人学生を対象としています。それ以外の人にとっても役に立つ内容が盛り込まれています。特に、第2章、第3章を中心に読み、演習問題を実際にやってみることで、得られるものは多いと思います。また、参考文献の紹介も役に立つでしょう。

4、石黒圭『よくわかる文章表現の技術 I-V』明治書院、2009 年。

外国人学生に日本語を教える著者が、「外国語としての日本語」という見方から日本語をとらえ直し、わかりやすい日本語で書くために何が必要かをていねいに解説した本です。3の本と同じく、日本人学生を対象としています。それ以外の人を読んでも役に立つ内容が盛り込まれています。課題が各章の最初にあり、それに対する回答をもとにして説明をしている章もあるので、具体的でわかりやすい説明になっています。章ごとに参考文献が示してあるので、さらに先を勉強したい人にも役立ちます。

5、本多勝一『日本語の作文技術』朝日文庫、1983 年。

語順・読点の打ち方について実用的な技術を示した最初の本で、今でもその価値は失われていません。特に第1章から4章までを読むことで、文の中の修飾語の並べ方や、読点を打つ場所についての基本的な規則が身に付きます。それらをきちんと使えるようになるだけで、書く文章をずっとわかりやすくすることができます。

6、マーチン・ファウラー（羽生田栄一 監訳）『UML モデリングのエッセンス第3版』翔泳社、2005 年。

大変に強力ではあるけれども複雑でわかりにくいシステム記述言語である UML の一番大切な部分を取り出して、わかりやすく解説した本です。UML は、主としてプログラムを効率的に作るために作られた言語ですが、

それ以外の目的にも使えます。特にたくさんの人が関わる複雑な手続きをわかりやすく書き下ろすのに適しています。

UMLを使う上での問題は、これを書くのに使えるコンピュータプログラムがあまりないところです。統合開発環境である Eclipse の上で動くもののなどがありますが、動作がかなり重く、使い勝手もあまりよくありません。

ただし、これは UML 自体の問題ではありません。複雑な手続きをそれぞれの要素や手続きに分解して再びまとめ上げていくときに、UML とその背後にあるオブジェクト指向的な考え方は役に立つと思います。

あとがき

本冊子『UD 流！文章術』は、もともとはやさしい日本語で書かれた教科書を作るための注意点を簡単にまとめたメモでした。それを見た UD プロジェクトリーダーの三上喜貴先生と、教科書作りの中心となっている上村靖司先生が冊子としてまとめてみてはどうかと勧めてくださり、このような形で出版することになりました。上村先生にはまた、本文の内容について、多くの助言をいただきました。

この冊子を作るにあたっては、「やさしい日本語」の書き方を「やさしい日本語」で書くことを目標にしました。しかし、最初に書いたものは難しい言い方や回りくどい言い方をたくさん含んでいて、とても「やさしい日本語で書いた」とは言えないものになっていました。

書き直しにあたっては、中国の華僑外国語学院で日本語を教えておられる結城佐織さんに協力を仰ぎました。また、この冊子がこのように読みやすい形になったのは、コトモモ社のたけなみゆうこさんのおかげです。

みなさん、ありがとうございました。

2010 年 2 月 著者

著者

児玉茂昭（こだま しげあき）

博士（文学）。京都大学大学院文学研究科博士後期課程（言語学専修）単位取得退学後、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所非常勤研究員、長岡技術科学大学産学官連携研究員を経て、現在長岡技術科学大学教育研究高度化支援員。

UD プロジェクトにおいて、留学生のための「やさしい日本語」の開発に携わっている。

本書は 2011 年 3 月 20 日、長岡技術科学大学より UD Project の一冊として刊行されたものの復刊です。

UD流！文章術

2014 年 9 月 1 日 初版発行©

著 者 児 玉 茂 昭

発行者 伊 藤 義 郎

発行所 GIGAKU Press

(長岡技術科学大学出版会)

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町 1603-1

長岡技術科学大学内

電話 0258-47-9266

Joho-kiban@jcom.nagaokaut.ac.jp

Printted in Japan

ISBN978-4-907996-07-9

専門用語

- 専門用語はそのまま使う
- 専門用語には、ふりがなや一覧などを作ることわかりやすくする工夫をする

表現の工夫

- 本文10、12頁の表にある語、代名詞・連体詞などではできるかぎりひらがなで
- 二重否定やまわりくどい言い方、不要なくり返し、文末をあいまいにする表現を避ける
- 不要な言葉を省く
- 長い複合名詞は避ける
- 漢語サ変名詞は言い換えできないか考える。
- 複雑な文章の代わりに、「表」や「リスト」を使う
- 重要なポイントは肯定分で書く
- 相互参照や注は最小限にする
- 文はできるだけ短くする
- 指示語は具体的な語に置き換える

能動と受動

- 受け身の文は全体の半分以下にする

語順

- できるだけ基本的な語順を守る
- 修飾節は長いものほど前に置く

読点

- 読点の位置は、以下の二つの原則に従う。
 1. 基本的な語順と違う並べ方で文の要素を並べるときに読点を打つ
 2. 二つ以上の修飾節が一つの語にかかるとき、修飾節の境目に読点を打つ

質の高い大学教育推進プログラム

UDに立脚した工学基礎教育の再構築 (UDプロジェクト)

Tel : 0258-47-9238

Fax : 0258-47-9050

E-mail : kokusai@jcom.nagaokaut.ac.jp

詳しい情報はウェブサイトで

<http://twinning.nagaoka.ac.jp/ud/>



長岡技術科学大学
Nagaoka University of Technology

GIGAKU Press

